

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター カトリック仙台司教区・カリタスペース

(宮古・大槌・釜石・障がい者センターかまいし・大船渡・米川・石巻・福島デスク・原町・もみの木・CTVC)

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

第5回 東日本大震災仙台教区復興支援全国会議

前号から引き続き、第5回 東日本大震災仙台教区復興支援全国会議の最終日に行われた全体会とミサについてご紹介します。全体会、ミサには、全国会議の出席者だけでなく、仙台教区の各地から多くの信徒が参加してくださいました。

また、7月にパイロット版として行われた「被災地ツアー」の参加者から、その実り多い研修についての記事が寄せられましたのでご紹介いたします。さらに、9月から、毎月1度行われる「被災地ツアー」の企画についてもお知らせいたします。被災地を御自分の目で見、話を聞き、そこから得たものを、周囲の人にお知らせください。それも、貴重な支援活動の一つです。

最後に、カリタス石巻ベースの仮設住宅での本格的なお茶会についてご報告いただきましたので、ご紹介いたします。

全体会 意見交換・派遣のミサ

全体会では、最初に仙台教区の現在活動されている小教区について、パワーポイントでの簡単な説明があった。その後、小教区で活動されている方を代表して6名の方がそれぞれの活動について発表された。(詳細は、4→6・45通信第27号、28号へ掲載。)

発表後、「小教区が行う復興支援活動の課題」について意見交換が行われた。



小教区の活動について発表された方々

《活動の担い手はどうするのか？

モチベーションをどう維持するか？

①ボランティアを楽しむ。②雰囲気作り。③活動をふり返る。④指導的立場の人からの勧め。⑤4年しか経っていない。5年目の今、聴けることがある。聴くことから何をするのか考えられる。阪神淡路は今も活動継続している。⑥県外からの司祭の講話を企画し、教会内でボランティアの勧めを行い、できることから参加してもらうなどの意見があげられた。また、長く活動を続けるには？ということに対し、①イベントは有効。②現地のニーズを聞き取り、全国に発信する。③家にいながらできることを行う。という意見が出された。

《仮設住民への支援はどこまでやるか？》

仮設から復興住宅へステージが変化してきている。仮設の統廃合が進み、どのように活動を進めていくか？各小教区でも問題になっていることが話された。

活動に役立つ人材育成、スキル講座を行ってほしいという声も聞かれた。



《後方支援側の課題について》

①距離的に遠い。現地に来られる人は少ない。②個人的なネットワークは強い。組織的なネットワークがあるのでは？との意見が出された。また、関わり方の模索について、今後「何をするのが支援」になるのか？仙台教区が元気になることは何か？との意見が出され、仙台教区への要望として、仙台教区内で検討し、全国へ発信してほしいとの意見があった。また、ボランティアを送り続ける。との声もあった。私たちが「忘れないで欲しい！」という被災地の声に応じ、視察ツアーを継続し、それを仲間に伝えて、祈りを続けて！という意見もあった。

震災当初の緊急救援期から段階的な通常活動へと移行し、「忘れられていない」ことを感じられる方法が必要。寄り添い方に工夫がいるのでは？との意見が出された。

また、個人ボランティアの経験を周りに伝えていないのでは？との意見があったが、それに対し、ボランティアをして宣伝しているのでは？ということや、右手でやっていることを左手に知らせるなということを言われたと話される方もいた。しかし、宣伝してよかった、つながっていてよかった、助けを求めたら40もの教会とつながったという声があった。

《被災者の状況に起因するものについて》

①被災者の生活の基盤がどうなっているか？特に仮設住宅に残されている人。②被災者の不安。福島県は原発事故の影響により、他の県と異なる問題がある。汚染の実態は？除染はすすんでいるのか？避難解除されたらどうするのか？など。③補償金が様々な分断を起している。そして、④私たちが「忘れないでほしい！」という声がある。視察ツアーも継続して欲しい！それを仲間に伝えて欲しい！祈りを続けて！

《継続する上での困難さについて》

①ずっと支援を続けてきたが、4年経過し、限られたメンバーによる活動で疲れが出ている。自身も高齢化している。活動人数が減少している。②活動費は、教区からの援助もあるが、自己負担も多い。③考え方の違い。福島では汚染をどう捉えるかなどが影響している。④司祭の動きが鈍い。一緒に歩んで！⑤被災地へ関心を持って欲しい。関心を持てば、やれることはある。⑥復興が進むことで「見えなくなる」化が起こっている。これまで祈りの場所となっていたところが無くなる。⑦活動によって得たものも多い。待っている人がいる限り、続けていきたい。「全て流されたけどあなたに会えてよかった」という言葉をもらった。対等な関係「あげるのではない」が大切。



これまで小教区が行ってきた活動は、それぞれの地域で評価されている。各教会が拠点になっていることは、素晴らしい。寄り添う苦労の経験は、全国の励み、モデルになる。個性があり、違いがあることも良い。という意見が出された。

午前中からの全体会議、昼食をはさんで引き続き行われた「具体的な取り組み」についての討議も終わり、いよいよスケジュール最後のミサを残すだけとなった。

ミサは、「犠牲者を追悼し、被災者への癒しを求め、復興支援活動に祝福を求めるミサ」であった。この日は、ちょうど日本全国の教会で「福者ペトロ岐部司祭と187殉教者」の記念日でもあった。

主司式は菊地功司教で、平賀徹夫仙台教区司教、幸田和生東京教区補佐司教、その他、全国会議に参加した司祭たちと、仙台教区内で働く司祭たちの共唱ミサでささげられた。



参加者は、全国会議出席者と仙台教区各地から集まった信徒たちで、約150人が、心を合わせ、犠牲者の追悼と、被災者の癒しを求め、復興支援活動に携わるすべての人々のために祈った。

ミサの説教は菊地司教が行い、「今日の発表でも言われていたように、カリタスさん、とベースのスタッフもボランティアの人々も、地元の人々から呼ばれている。これは、とてもいいしるしだと、私は思っている。私は、カリタスの会議に出席し、海外でこのことを発表するのだが、この『カリタスさん』を何と訳していいかいつも迷っている。たいてい“Mr. & Ms. Caritas”と訳している。これで、被災者の方々からも、地元の方々からも好意をもって受け入れられており、その人々のためのよい支援活動をしているということが分かってもらえる」と述べ、参加者の共感を呼んだ。

全国会議の最後に、みことばといのちの糧をいただき、満たされた参加者は、最後の「行きましょう。主の平和と喜びのうちに」という力強い派遣の言葉を受け、自分の使命の地へと旅だった。



被災地視察ツアーのご案内

第5回東日本大震災仙台教区復興支援全国会議の全体会において、私たちが忘れないでほしい！という声や視察ツアーも継続して欲しい！それを仲間に伝えて欲しい！という声が聞こえました。

そこで、今回、カトリック教会内外の多くの方に東日本大震災の被災地の現状を知っていただくため、ツアーを開催することになりました。これから支援を始めようと思っている方、震災後、東北へ足を運んでいないという方など、ご自分の目で被災地の現状をご覧いただければと思います。

実施内容等の詳細は、仙台教区サポートセンター活動日記のホームページ上に掲載しておりますので、ご覧ください。

皆さまからのお申し込みをお待ちしております。

ツアーの内容を大まかにご紹介します。

《日程》

- ◇第1回 2015年9月17日(木)～9月19日(土) Aコース
(※第1回の申し込み締め切りは、9月7日(月)です。)
- ◇第2回 2015年10月19日(月)～10月21日(水) Bコース
- ◇第3回 2015年11月9日(月)～11月11日(水) Aコース
- ◇第4回 2015年12月9日(水)～12月11日(金) Bコース
- ◇第5回 2016年1月18日(月)～1月20日(水) Aコース
- ◇第6回 2016年2月22日(月)～2月24日(水) Bコース

《定員》

- 各回8名 *最少催行人数：5名
- *定員に達し次第締め切りとさせていただきます。
- *申込者が5名に満たない場合は順延します。
- その場合、お申し込みくださった方には、締め切り日当日もしくは翌日にご連絡を差し上げます。

《コース》2コースあり、日程により異なります。

Aコース：宮城・岩手コース

- 1日目：仙台(カトリック元寺小路教会) 集合→宮城県亶理町→石巻市→米川ベース(宿泊)
- 2日目：米川ベース→南三陸町→気仙沼市→岩手県大船渡市→カリタス釜石(宿泊)
- 3日目：カリタス釜石→大槌町→宮古市→盛岡駅にて解散



最大8名の少人数で被災地を巡ります。

Bコース：福島・宮城コース

- 1日目：福島県 カトリックいわき教会集合→いわき市→檜葉町→大熊町→富岡町→浪江町→南相馬市・原町ベース(宿泊)
- 2日目：原町ベース→宮城県亶理町→石巻市→米川ベース(宿泊)
- 3日目：米川ベース→南三陸町→気仙沼市→岩手県陸前高田市→大槌町→大船渡市→仙台駅にて解散

《参加費》※集合時に集金いたします。

- 両コースともに、おひとり15,000円となります。
- *期間中の食事代、ベース滞在費、交通費、旅行保険加入料を含む。
- *集合場所まで、また解散場所からの交通費は含まれていません。

《持ち物》

○洗面用具、シーツ2枚(掛け布団と敷き布団それぞれのため)

《申し込み方法》

ご案内をお読みいただき、申し込み書にご記入の上、仙台教区サポートセンターまでFAX(022-797-6648)や郵送にてお送りください。

*ご案内及び申し込み書は、仙台教区サポートセンター活動日誌のホームページからダウンロード出来ます。

*パソコンでの印刷が難しい場合は、仙台教区サポートセンターに、電話(022-797-6643)でご連絡下さい。

FAXまたは郵便で書類をお送りします。

《視察ツアーの特徴及び注意点》

- ・最小催行人数5名、最大8名という少人数でのツアーのため、説明が聞きやすく、質問がしやすくなっています。
- ・移動手段は全てスタッフが運転する車(10人乗り)になります。
- ・宿泊場所は、カリタスペースで雑魚寝となります。ベーススタッフや全国からのボランティアさんと直接交流することが出来ます。
- ・コース内容については、若干変更となる場合があります。
- ・事故等には十分に注意し、配慮いたしますが、天災等の不慮の事故やツアー中の事故等については、旅行保険の範囲内となります。それ以外の対応については責任範囲外とさせていただきます。

◎ツアーお申し込み・お申し込みについてのお問い合わせ先◎

仙台教区サポートセンター

TEL:022-797-6643、FAX:022-797-6648

(電話は9時から17時までをお願いします。)

*郵送でのお申し込みの場合は、以下の住所へお送りください。

〒980-0014

仙台市青葉区本町1-2-12 カトリック元寺小路教会内2階

仙台教区内に呼びかけて7月にパイロット版として行った被災地ツアーの参加者の感想をご紹介します。

東北ベース視察旅行に参加して

マリアの宣教師フランシスコ修道会 内田 雅

亘理にFMM修道院が創設されて、3ヶ月。まず初めに、7月1日「東日本大震災仙台教区復興支援 第5回全国会議(元寺小路教会)」に参加しました。小教区のこれまでの支援活動と、今後の課題の報告に感銘を受けながら、同時に、その時、触れられなかった各ベースでの取り組みを知りたいと思いました。そのような時に、この視察があることを知り、一も二もなく、申し込みました。

視察は私たちの住む亘理から始まり、石巻、米川、大船渡、釜石、大槌、宮古ベースと、小松神父様の豊かな体験談を車中で聞かせていただきながら、7箇所を巡りました。どこを走っても目にしたのは、山が崩され、道路、住宅づくりのための大規模な嵩上げ工事、巨大な堤防と災害公営住宅(地域によって差がありましたが)の構築でした。

最も心に刻まれた場所は、大川小学校でした。4年前、海外で受け

取った新聞に書かれていた記事が脳裏によみがえっていました。石碑の子どもたちの名前の下には年齢記載がなく、遺族の方々の心の中で、子どもたちは成長し続けている……その意味するものに気づいた時、どれほどの痛み、悲しみがそこにこめられているかを感じないではいられませんでした。



大川小学校(宮城県石巻市)

各ベースでは、スタッフの方々による、的を絞った視察と丁寧な説明をしていただき、ベースによって抱える問題が違って、被災者の状況の変化や個人的なニーズにどのように応えるかという共通した課題や、町や村の過疎化、高齢化の問題など、被災者支援を越えた状況に関わらざるをえない葛藤もあるようにお見受けしました。興味深かったのは、ベースの設置地域、スタッフの経験、年齢、出身の違いが、各ベースを特色あるものとし、結果的に、それらが、独自の支援、豊かさに繋がっているように感じました。スタッフの方々の変わらぬ熱意、誠意で積み重ねてこられた実りを今後も活かされることを願います。

視察が終わった翌朝。新聞を開いた途端、東北関連の記事が、これまでと違ったものとして目に飛び込んできました。たった2泊3日の駆け足視察であったにも関わらず、訪ねた地は、私の一部になっていたのです。4年前でなく、今、亘理に派遣された意味を問い続けていた私にとって、この違いは大きなものでした。被災者の方々が最もつらかった時期に寄り添えなかった事実を消すことはできませんが、それでも、主が、今、変化する被災地の現実のただなかに私たちを置いてくださったことは、今、ここに、働いておられる主の業を見て、知らせよ、という呼びかけかもしれません。「初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを伝えます」(1ヨハネ1:1)という聖書の言葉が心に浮かんでいました。

3人のみの参加者で遂行して下さった小松神父様に感謝、また貴重な時間を割いて対応して下さいましたベースの方々に感謝。

この視察が続けられ、多くの方が、被災地と個人的な体験をされることを強く望み、お勧めしたいと思います。



車窓からの風景 どの地域でも同じような工事が行われていた

「被災地は今」視察旅行

青森県・カトリック本町教会 平川 洋子

7月21日、仙台教区のカテドラル・元寺小路教会から、亘理の仮設住宅集会所へ。ここでは、八木山教会「オリーブの会」の方々が中心となって、「お茶っこサロン」、手芸、和服のリメイクなどの指導をしたり、交流を深めていることを、八木山教会の野田和雄さんが話してくださいました。

また、今回の参加者の2人が所属なさっているマリアの宣教師フランシスコ修道会の修道院も、亘理に新設されたそうです。仮設住宅から復興支援住宅への移転も順調のようなので、各コミュニティの交流ができると、更なる前進があると感じました。



亘理町旧館仮設住宅にて

ツアー参加者と八木山教会の野田さん

カリタスお茶会「押切沼仮設住宅」に参加して

カトリック東仙台教会 阿部 正子

「頑張ろう石巻」と大きな看板を掲げている石巻ベースの明るい部屋に、被災者の方々がお茶会に来られるそうです。中村愛さん他、スタッフ、ボランティアの方々が頑張っておられますが、まだまだボランティアの人数が足りないとのこと。

日和山公園から見た石巻市の被害の大きさも、想像を絶するものでした。公園には、家族を亡くされたAさんが、自らいかに悲惨であったかを説明してくださいました。

石巻市の大川小学校では、74名も亡くなりました。校舎は災害当時のまま残されていました。

米川ベースでは、千葉道生さん、スタッフ、学生ボランティアと共に、夕食後分かち合いをし、有意義な時を過ごしました。



米川ベースのお茶っこ活動に参加

7月22日、米川教会で早朝、ミサに参加した後、南三陸の仮設住宅集会所の「お茶っこ」に参加し、被災者の方々の明るさに元気づけられ、大船渡へ。

大船渡ベース「地の森いこいの家」では、大船渡教会所属の信徒・菅原圭一さん、スタッフ、ボランティアの方々が、「何でも屋です」と言われ、活動の多さ、目の回るような忙しさが伝わってきました。

釜石ベースでは、被災者にもっと寄り添えるようにNPO法人として、伊瀬聖子さんを中心に、スタッフが活動なさっていました。

3・11当時、釜石のある男子中学生の一言「ここはダメだ！高い所に逃げるんだ！」幼稚園児たちも連れ、皆で移動したので助かったとのこと——この話は絵本になっていました。

7月23日(木)、大槌ベースでは、速水敏生さんはじめ、6名のスタッフは集会所でお茶っこサロン、被災者宅を回り、ニーズに応じた活動をなさっていました。集会所兼ボランティア宿舎で、3月11日のビデオを見て、津波の不気味で恐ろしい生き物のような動き、様子、悲惨な様子を再確認しました。

カキの養殖をしている大槌町能美を後にし、宮古教会に着きました。伊藤純子さんが笑顔で迎えてくださり、「本当に大変な時はお祈りだけではなく、祈りながら行動することが大切だ」と言われたことに感動しました。



宮古教会前

4年を過ぎた今、それぞれの町により、復興の進行具合の違い、各家庭が違うように、各ベースにもそれぞれ特色がありました。傾聴活動は、「被災者」という言葉を使わなくなるまで、必要な活動だと思いました。

7月15日(水)、石巻市街から少し遠い位置にある押切沼仮設住宅を石巻ベースの中村愛さんとSr.石田弘子さん、仙台からのボランティアの高橋邦子さんの4名で訪問しました。毎月1回参加している東松島市ひびき仮設住宅でのカリタスお茶会の際、ベース長の中村さんより押切沼の皆さんがお抹茶を希望されているとの要請があり、日程を調整し合って実現することができました。

当日は猛暑続きの中にあり、皆さんの生活はいかばかりかと思ううちに仮設住宅地に到着。集会所では、自治会長の石森さんはじめ皆さんが準備を整えてくださっており、どれほどにこの日を楽しみにしてくださっていたかを感じながら、冷房の効いた中で、早速お茶会の設えを始めました。次々に皆さんが集まって来られ賑やかになってきました。

お茶会ということで少し緊張気味でいらっしゃるようなので、先ずお煎茶で一服しましょうと、美味しいお茶の淹れ方などをお話ししながらお召し上がりいただきました。

笑顔が広がり、いつの間にか初めての出会いとは思えないほどの雰囲気になって楽しくお茶会が深まっていきました。



まずは、煎茶で一服し、緊張をほぐしました。

次は、いよいよお抹茶です。毛氈(もうせん)を敷いて、略式ながら点前を始めました。以前にお茶のお稽古をされたという男性の伊勢さんを中心に、皆さんのお客様ぶりも和やかに薄茶を楽しまれました。伊勢さんも点前され、石森さんは茶道具にも大変興味をお持ちになり、自分でも作ってみようかなとの言葉も飛び出して茶話も弾み、午前の部は終了しました。

思いがけず、昼食に石森さんの奥様お手製の美味しいタケノコご飯をご馳走になり、感謝でした。お昼もそこそこに、皆さんが再びお越しくださり、午後の部の始まりです。煎茶、抹茶の研修会のような雰囲気、楽しく時は過ぎました。「この次はいつ？」との笑顔の問いかけに、「またお伺いさせていただきます」と。この日の善き出会いも神様のお計らいと感謝しました。

ボランティアを続ける中で、自分のできることを自分らしく活動できることを受け入れていただけたところがあることを有難く思います。

